津波関連調査班メモ　　東北大学大学院　今村文彦

津波関連調査班

- 目的:今回の津波の特徴，被害の概要，避難行動の実態把握
- メンバー:北大，東北大，秋田大，京大，人と防災未来，海洋科学研究センター，日本工営(協力)
- 期間:平成15年9月26日午後より一継続中
- 対象領域，北海道太平洋沿岸(苫小牧より東側)，東北太平洋側
- 調査項目:
- 津波痕跡高さ，来襲時間，方向
- 津波関連被害，情報，避難，対策

津波の特徴

- 1-4m程度の遡上高さ
- 1m前後の津波高さ(検潮記録)
- ゆるやかな津波来襲
- 早い来襲時間(第一波押し20-30分)，押し波で始まる
- 十勝川河川遡上(11km)
- 比較的避難率は高い
- 津波避難勧告の不統一

津波についての疑問と回答

- なぜ，M8地震規模で津波1-4m程度　？
  - 深い30-40km，低角断層，浅い水深
- なぜ，検潮記録と津波遡上に差が生じたか？
  - 港内，地形の影響，記録地点は限りがある
- なぜ，ゆるやかな津波が？
  - 周期が長い
  - 長い断層，浅い海域での発生
- なぜ，継続時間が長かったか，えりも岬での4m？
  - 浅い海域での発生
  - 境界波としての特性，多重反射
  - 岬の先端は集中しやすい

十勝川の遡上（北海道開発局）

- 河口の大津港で5時30分平常水位＋1．2mを記録
- 約10km上流の旅来観測所で5時52分頃＋90cmのピークを観測
- その上の導水路（河口から11km）でもこのピークが出現
- 旅来の記録にはこの後も9時まで6度ほどの津波によるピークを観測
- 十勝川両岸は、津波発生後、約11km地点まで、水位が1m上昇したとみられ、

意識・住民行動について

- 津波の意識はあった.
- 1952,1960,1968,1993年の地震津波を経験
- 5割が行動をとった.
- 参考, 92石垣島3割, 三陸南1割弱
- しかし, 避難先や避難手段には課題
- ハザードマップ等の未整備
- 津波避難勧告の不統一
- 漁船の避難(港外脱出の基準を)

課題

- 1952年地震津波との比較対応
- 津波観測の充実を(自治体, 海底津波計)
- 自治体間で避難勧告などの対応がバラバラ
- 安全な避難が出来ているか?
- 漁船の避難に問題あり
- つり客やサーファーなど, 沿岸利用者への対応が課題